

# お わ り に

理事 我孫子研究所長 加藤 正進



原子力発電は、我が国のエネルギーを安定的に供給するとともに、エネルギー消費に伴う環境負荷を最小限に抑えることが可能な発電方式であり、21世紀においても我が国の基幹電源としての役割を担う有力な技術的選択肢の一つと考えられる。しかし一方で、原子力発電所の新規立地地点を確保することは次第に困難になりつつあり、原子力発電所の立地を円滑に推進するために多くの課題を解決しなければならない。このような情勢のなかで、当研究所では、立地の制約を緩和するための新しい立地方式のひとつとして、人工島式海上立地の研究に取り

組んできた。本研究では、電力共通研究の場などを通じて、海底地質・地盤調査技術、防波護岸の耐波・耐震安定性評価技術、周辺海域の波・海浜流・海浜変形の評価技術などハード面での技術開発に加え、広く社会に受け入れられやすい発電所の立地を目的とした立地支援技術といったソフト面での技術開発にも挑戦してきた。これらの成果は、土木学会・原子力土木委員会の原子力発電所の立地多様化技術の体系化作業に活用されている。その間、ご指導、ご協力を賜った大学、研究機関、電力会社の関係各位に心より御礼申し上げます。

今後、これらの成果が、国、電気事業における指針化、基準化など多方面に活用されることはもとより、社会の理解を得た円滑な原子力発電所の立地に益々貢献できるよう研究を進めて参る所存ですので、関係各位のご指導、ご鞭撻をお願いする次第であります。